

知立駅周辺地区エリアプラットフォーム

商業戦略部会 # 1 議事概要

日時：2026 年 7 月 15 日(水)15:00 から

場所：知立市役所 北東 C 会議室

参加者名簿（順不同、敬称略）

会員	団体名/法人名	出欠席
1	知立まちづくり株式会社	出席
2	知立市商工会	出席
3	知立市商工会青年部	欠席
4	株式会社藤田屋	出席
5	株式会社 FUJI	出席
6	名古屋鉄道株式会社	欠席
7	知立銀座商店街協同組合	出席
事務局	知立市 まちづくり政策課	出席
随時	知立市 産業振興課	出席

※会員 7 名中、2 名欠席、5 名参加であり、定足数（過半数）を満たしているため開催。

議事要旨

1.挨拶(事務局)

■今年度より知立市機構改革が行われ、担当が経済課からまちづくり政策課へ変更となった旨説明し、自己紹介を実施。

2.部会長の選任

■知立駅周辺エリアプラットフォーム規約第14条第2項に基づき、部会員の互選により部会長を選出する手続きを実施。
・他薦により知立市商工会 新美氏が推薦され、部会長として承認された

3.昨年度までの活動振り返りと今年度の方針説明(事務局説明)

■事務局より資料2に基づき、昨年度(ビジョン検討部会)の成果と今年度(商業戦略部会)の活動方針を説明。

4.意見交換

- 事務局説明を受け、出席者から知立駅周辺の商業活性化に向けた課題・戦略・具体的アイデアが活発に議論
- 知立の根本的な課題は「寄る理由がない」ことであり、年間30,000人の乗降客を売上に転換する仕組みが最優先と指摘。目的客(遠くから来る客)と通過客(歩いて立ち寄る客)を区別して考えることが重要と提案
- まず30,000人の乗降客をしっかりと売上に変換し、その賑わいをもとに次の投資・目的客誘致につなげるという段階的アプローチを提案
- テナントラインナップの設定、運営体制の構築、全体ビジョンの発信が必要
- 具体的なテナント例として、子育て支援(一時預かり)、体験型雑貨・利用品、新刊書籍コーナー、食べ歩きフード開発、居心地の良い滞在空間などを提案
- インスタグラム等SNSを活用した情報発信、地元商工会・発展会との連携が重要
- 市場規模の試算として、10万人が平均10,000円消費すれば市場規模が形成されると説明
- 駅前広場や30メートル道路の有効活用、キッチンカーの試験的導入によるデータ収集を提案

- 土地の面的な貸し出し・活用方法を検討すべき
- 名鉄との連携（電車の頻度増加・接点形成）についても言及
- スモールビジネスの創業支援・誘致を通じた段階的な商業集積の可能性
- 15～20 店舗程度の集積が集客力として有効であり、エリア設計（駅から 5～10 分圏内）が重要
- 一年だけでなく、二～三年継続して商売できる環境を整えることが成功の条件
- コンセプト（日本一の寄り道ステーションなど）を明確にすることで、来訪者への訴求力が高まる
- 交流人口 500 万人規模の実現に向け、知立市の 160 万人商圈を活かした広域集客の可能性を提起
- 事務局より本部会のオープン化（市民への公開）を提案し、オープン化を進める方向で取り組むこととなった
- 事務局より商業戦略部会として視察を実施したい意向を示し、行きたい場所・見たい事例について次回会議までの提案を募った
- 事務局が目標や関与者の役割分担（誰が・どうやって・何を行うのか）を整理し、次回部会で議論することとなった

以上